

IT技術の効果的な活用を中小企業に広めたい 株式会社システイブリック

平成27年5月に高橋基社長が設立した(株)システイブリックは、生産管理システムや工場設備の制御プログラムといったソフトウェア開発を手掛ける企業である。主なターゲットは製造業を営む中小企業である。

高橋社長は、エンジニアとしてIT企業で約30年働き、アメリカでの駐在経験も持つスペシャリストである。残業が多く、ソフトウェアが目に見えないことから評価してもらえないといった、日本のIT企業エンジニアの労働環境や処遇を改善したいという思いや、アメリカ駐在時に現地エンジニアの多くが独立を意識していたことに刺激を受けたことなどから、同社を立ち上げる決意を固めた。

IT企業はインターネットにつながれば仕事をすることができると。立地場所を選ばないため、高橋社長は地元である西条市で事業をスタートさせた。



▲高橋社長(上)と社内様子の様子

現在、5人の従業員を雇用し、これまでに培った豊富な知識とノウハウを生かし、独自のソフトウェアの開発を行っている。

IT導入によって 作業環境の改善をサポート

同社が開発した製品に、工場の生産工程を管理する「寄合型生産管理システム」というものがある。

日本では、生産管理にIT技術を導入している中小企業は多くない。ホワイトボードや紙媒体を使い、アナログで管理している現場がよく見られる。そこにチャンスがあると考えた高橋社長は、現場の各担当者が生産状況や今後の計画について入力し、反映させ、各工程情報を集めることで全体の工程を管理する同システムを開発した。

生産管理を行う場合は、管理責任者が生産計画



▲寄合型生産管理システムの使用例

面を組み、現場へ反映させるといった方法で行われるが、業務量の細かな調整が難しく、各工程で繁閑のムラができてしまう可能性が高くなる。同社はこういった従来の生産管理をより効率よく行えるよう改善させた。

入力された情報は、インターネットを介して営業担当が持つ端末にもリアルタイムで反映される。現場の生産状況を正しく把握できるため、生産に余裕があるときに受注を断ってしまうようなロスや、逆に生産がいっぱいで納期に無理のある受注を回避することが可能となり、中小企業の働きやすい環境を整える一役を担っている。

海外連携への挑戦

近年、さまざまな業種の企業において人材不足が問題となっているが、IT業界も同様に人材の確保が大きな課題となっている。その課題を解決するため、同社は海外での拠点整備を計画している。

IT大国であるインドに拠点を置き、現地の優秀なエンジニアを確保してソフトウェア開発を行う。その一方で日本のエンジニアは、製品の管理や顧客対応などのマネジメント業務に特化させる。こうした海外拠点との連携により、人材確保の課題解決だけでなく、よりよい製品の開発につなげていくことで、同社はさらなる成長を目指している。

のぞいてみませんか うちぬきサロン

サイクスでは、毎月異業種交流会「うちぬきサロン」を開催しています。

地域産業振興のエネルギーを生み出す場所として、毎回約100人の産業人が参加しています。業種や分野などは不問です。皆さんのお越しをお待ちしています。

■12月の開催予定

- 日時 12月11日(月) 18時~20時30分
- 場所 サイクス1階 交流サロン
- 参加費 2000円
- ※G・S・I・C・S会員企業などは1000円

■申込先・問合せ

産業情報支援センター
 TEL 0897-53-0010



▲うちぬきサロンの様子